

タイムスの日露

戦争批評(二)

タイムス(倫敦)の軍事批評家が其二月十日發行の紙上に於て日露戦争を批評したる所左の如し

日本の海軍は世界海軍の史上に於て其の地位を占むるに足るべき勇敢なる動作を以て其戦闘を開始せり月曜日(八日)夜に於て若干の日本水雷艇は即ち旅順口の港外に於ける露國艦隊を襲撃し好結果を奏して以て露國艦隊中の精鋭を以て誇りし二隻の戦闘艦と且つ一隻の巡洋艦に其進退の自由を失はしめ而も日本水雷艇は損害を受くるもなかりて其退却を完くしたるに似たりアレキシーフ提督の露帝に致したる電報はタイムス通信員の慎重なる翻譯を経て本紙に送電せられたり其通信に依るも明に三隻の軍艦水雷の命中する處となりて爲めに孔穴の穿たれしものと云ひ又汽船コラムビア號の芝罘に墮したる興味ある戦報に據るも露國軍艦三隻は皆その沈没を防がんが爲めに擱岸するに至りたるを云へり

露國太平洋艦隊の艦艇に関する記事は既に十二月二十四日のタイムスに現れたり損傷したる三隻の戦闘艦中ツアーレヴィッチは現時ク

リゴロヴィッチ大佐の指揮する所にしてラセーヌに建造され千九百二年の末を以て初めて役務に就き同方面にある露國の他の戦闘艦に比しては最も新しく之に發遣されたるものなり尙ほツアーレヴィッチは艦隊中の最大軍艦にして一萬三千百噸の排水量と一萬六千三百の指示馬力を有し公稱速力十八哩、砲彈防護は六吋より十一吋に及び全艦射撃の總彈量は三千五百十六斤を算すレトヴィッツの艦長は目下シユツエレスノウイツチ大佐にして曾て提督スタケルベルグ男爵の旗艦に充てられたるをあり排水噸數一萬二千七百、指示馬力一萬六千、速力十八哩、甲裝五吋乃至十吋、全艦射撃彈量三千四百三十四斤、フイラデルフ

イアのクラムプ造船所に於て建造され三年前初めて其役務に上されたるものなり此艦隊は露國艦隊中にありて其最も有力なるものにして最良の甲裝を有し又最良の武器を備ふるものなり此際當りて露國の戦艦は露帝に排せられたるは露國の不幸なりと云はざるべからずして其結果の重大なる實に言語の外にありとす

損傷したる今一隻の軍艦はバルラダにしてパルラダは一等甲裝巡洋艦たりコンヴィツチ大佐之が艦長たり本艦は比較的新造軍艦にして

千八百九十九年八月初めて進水し六千三百三十噸の排水量と二十哩の速力を有す是れ亦昨年の上半年中露國艦隊の勢力を擴張せんが爲め東方に派遣せられたる軍艦の一なり露國艦隊既に出でる港外に其陣地を取る是れ即ち敵をして其攻撃を敢てせしむるものにして又之を勝つものなりとは去る月曜日(八日)の本欄に論ぜられたる所なり此戦は即ち敵の海軍に至高の名譽を與へ一舉にして日本の位置を現存する最良海軍と同一の地に達せしむるを得たり世界最良の海軍は之に對して同一の位置に立つものと得べし而も此露國勇敢なる功績に對しては聊も之に超越するも能はざるものなり尙ほ本欄に於て去る月曜日(八日)に論じたる所に曰く露國艦隊は疑ひもなく海面に巡遊艦、偵察艦を有して不意の襲撃に備へ水雷に抗する爲めに必ずや其網を其海所に張れるものなるべしと露人の編者を用意を以て之を斯の如くなるべしと計するは或は之を賣むるの重きに失したるものなりしなるべし唯だ其果して露國を有し居しや否やに至りては之を知らず之が全く不十分なりしは既に明白なりとす

此功績より来る無形の結果は夫れ必ずや偉大なるべく戦闘中一切の行動に之が勢力を及ぼす所あるは明なり

露國艦隊既に出でる港外に其陣地を取る是れ即ち敵をして其攻撃を敢てせしむるものにして又之を勝つものなりとは去る月曜日(八日)の本欄に論ぜられたる所なり此戦は即ち敵の海軍に至高の名譽を與へ一舉にして日本の位置を現存する最良海軍と同一の地に達せしむるを得たり世界最良の海軍は之に對して同一の位置に立つものと得べし而も此露國勇敢なる功績に對しては聊も之に超越するも能はざるものなり尙ほ本欄に於て去る月曜日(八日)に論じたる所に曰く露國艦隊は疑ひもなく海面に巡遊艦、偵察艦を有して不意の襲撃に備へ水雷に抗する爲めに必ずや其網を其海所に張れるものなるべしと露人の編者を用意を以て之を斯の如くなるべしと計するは或は之を賣むるの重きに失したるものなりしなるべし唯だ其果して露國を有し居しや否やに至りては之を知らず之が全く不十分なりしは既に明白なりとす

露國の海軍を以て其の屈辱を忍び之に酬
いんとするの必死の計畫を行ふものばわら
と断ずるは単計なり彼等の之に酬いんとす
欲するは明白にして又彼等は之に酬いんとす
からざるものなり露國の海軍中には大膽にし
て且つ勇敢なる多數の少壯士官を有す此等の
士官は氣略と技術とに於て其敵に比肩するに
堪へたり然れども日本先づ機先を制せしむる
攻撃せしむるに成功せしむるに成功せしむる
に他の計策を敢てせしむるに至るべく己れ優
等なりとの感念の之より生じ来るは疑ふべか
らざる所なり

露國の水雷艦隊にして自軍の氣を奮起し打撃
に報ゆるに打撃を以てするにあらざるよりは
最早や成功の算を以て露國の之に艦隊的交戦
を試みるに至るの時あるを期すべからず是れ
即ち此成功より来る明瞭なる結果なりとす
露國艦隊の威嚇力は其大部分既に消滅に歸し
たるものにして今日まで困難にして且つ危殆
なるの觀ありし陸上の作戦は早く尋常茶飯の
作戦行動たるに至れるものなり
一司令の下に聳く其艦艇を集め且つ多數の小
艇を備へて海軍上の準備に於ては又其精を盡
さいるなく而も露國の海軍を受け居り露
國艦隊は何が故に其陸上砲臺の砲火の下に斯

の如き襲撃を受くるの愚を爲し且つ其微弱な
る敵に對し何等の損害をも與ふるもどなくし
て其逃走するに委したるや近世の海軍戦闘に
於ては其結果の生ずる所必ず大なるものある
を信ぜざるものには是れ亦一箇の驚愕に堪へた
る材料にして之が詳述するの日海軍戦闘に
志を有するものは皆熱慮して之を讀まんふと
を欲するなるべし造船家等に取りては佛國建
造のツエカレツイツチ及び米國建造のレトザ
イサンの早く戦闘線外に排除されたる蓋し甚
しく遺憾とする所なるべし何となれば英國建
造の艦艇に對する艦隊戦闘に於て此等軍艦の
優劣如何は之を比較し得るの時機遂に殆ど豫
想するも能はざるを以てなり (未完)

明治三十七年三月廿二日 時季

○タイムスの日露

戦争批評 (三)

(二月十日所載軍事記者家の所論)

露國艦隊の被害に陥りたるは之を要するに狭
隘なる海面に於ける水雷攻撃の危険を分
計量するに能はざりし露國上りの誤に直接原
因するものなり露國の海軍は得べし又實際に
之に原因したるやも知るべからず大は戦闘艦
より小は機銃の末に至るまで如何なる器械と
雖も用ふるに其道を得ざれば塞ぐ之が價値を
有するものにあらず然れども用はるは其原
の向より一層深遠なるものなり即ち此其の真
任は其大部分之を露國の外交にせざるべから
ず露國の外交は露國の海軍の準備より露國の
く露國艦隊の猛烈なる其歩を同じくし乳
べきや否やを測らざりしものなり其艦隊をし
て適當なる船渠を有せざる露國に滯泊せしめ
之に戦略上の自由と發動の機を奪ひて以て之
を狭隘なる海面の死角内に於て危険なる陣地
に立たしめたるもの全く露國海軍の爲せる所
にあらず其在りし所に在りたるは即ち露國艦
隊の不幸にして之が過誤にあらず露國海軍の
如き大海軍が其太平洋艦隊の受けたるが如き
被害を以てして爲めに一時其名譽を汚すべし

あるも我等は常に公平に其眞原因を推究し外
交無能の爲めに其最初の犠牲に擧げられ運命
の最初の犠に供されたる其勇敢なる露國艦隊
に對しては之を嘲弄するよりも寧ろ之に同情
を表せざるべからず然れども露國艦隊に取り
て不幸なるは此攻撃の何故に昨夜(即ち九日)
再びさるべからざりしか又何故に續々反覆さ
るべからざるや、之に特異の理由あるを見ざ
るの一事なり連續的攻撃の主義と實行とに至
りては日本海軍將校の最も好む所にして實に
露國との其戦に於ける特効の一なりしなり露
國軍艦の狭隘なる水路を露國の港に退くに
成功したりとす露國の水雷艦隊は之を追跡
するを敢てするなるべし現に會て一たび之を
甚だ相類せる事を行ひたるを露國の露國艦隊
を其艦艇に有せるは其價値の頗る大なるもの
なりとす

露國の間に當りて日本の準備は能く如何なる事
態にも應じ得るの域に達せり數週前に於て運
送船は其各軍港及び要港に集合せしめられ其
補助巡洋艦は武装されて以て遠海に於ける露
國商船を捕獲するの備を爲し其現役軍艦は完
全に動員され第二線備兵亦その若き戰友に代
はりて本國の土地を防禦せんが爲め既に召集
されたり

日本の計略に就ては未だ一語たりとも發表さ
るる所あらざりしと雖も重なる日本艦隊の
佐世保にありて進發の命令一下するを待ち居
たるものと及び防兵の重要なる一隊が南方海港
に集められたる運送船に搭乗せんとして其準備
を整へ居たるものとを露國艦隊の追撃するもの
あらざりせば日本陸軍に取りて其好適なる上
陸點は必ずや鴨綠江の河口に外ならざるべく
之より最短の距離を取りて奉天より旅順口は
遠する鐵道線に對し進發を試みんとするもの
たるは最早や其疑を容るゝも能はず是を以
てか露國が鴨綠江の下流に其強大なる軍艦を
集中し其艦隊及び水雷艦隊を以て斯くの如き
日本の攻撃に對し其側面を衝かんとするの試
力を示したるは頗る的確に其形勢を看破した
るものなりと爲すべしと得べし旅順口より鴨
綠江の河口に至る距離は二百哩に滿たずして
露國水雷艦隊の根拠地を以て目されたるソ
ントン嶺地は又之が半に過すべし
朝鮮半島には一種の特種な其最良なる港灣
は殆ど盡く南部及び西部の海岸に集り此露國の
山脈は其東部海岸に蜿蜒し東方の傾斜は頗る
急なり然れども其東部海岸に於ても亦港灣な
きにあらずラサレフ港及び元山に於ては海